

おおどのコミュニティ協議会



心豊かに暮らし続けることができるまちづくり



おおどのコミュニティ協議会は平成21年6月に設立され、大殿地域交流センターを拠点として活動を行い、現在11年目を迎えています。

歴史と自然溢れる大殿の地域性を活かしながら、現在17の構成団体を中心に住民主体の地域コミュニティの充実を進めています。

★ 詳しくは、ホームページをご覧ください。<http://o-commu3388.sblo.jp/>

◆ おおどのコミュニティ協議会の基本目標は、

「働くところがあり、心豊かに暮らし続けることができるまちづくり」です。

この「働くところがあり」とは、もちろん職業、就業の場があるという意味もありますが、生きがい、やりがいなど自分の活躍できる場や、出番があるという意味も含んでいます。

◆ 合言葉として掲げている「チーム大殿」構想

これからのまちづくりを進めていくためには、みんなが同じ目標やイメージを持っていることが必要だと言われています。

現在、おおどのコミュニティ協議会では、構成団体等との連携や交流を進め、大殿の未来像（ビジョン）をもって、地域全体をつなぐ視点を持ったコーディネーター機能の強化に努めています。

合言葉として掲げている「**チーム大殿**」構想では、地域ぐるみの視点で、関りのある団体や個人がそれぞれの得意な分野を持ち寄り、出来る範囲で、力を合わせて活動することによって、さまざまな相乗効果を生み出す可能性を期待しています。

地域みんなが楽しく生活できているか。

いろんな人に生きがいや、出番があるか。

「**チーム大殿**」構想を合言葉に、これからも『働くところがあり、心豊かに暮らし続けることができるまち大殿』をめざし、皆さんと一緒に、様々な取り組みを進めていきたいと思ひます。



このキャラクターをご存じですか？
山口市が「協働のまちづくり」を進めるためPRキャラクターにしている【**キョードーレッド**】です。

今、社会環境は急激に進む人口減少と高齢化、人間関係（地縁：向こう三軒両隣）の希薄化、地域文化や伝統産業の衰退などにより、活力が低下してきていると言われています。また、住民の生活様式や価値観の多様化に伴い、物質的な豊かさから精神的な豊かさが求められるようになってきました。そのため、求めるニーズや公共サービスは多様化・高度化しています。さらに、1995年に発生した阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災などを契機に、地域活動やボランティア活動などへの住民の参加意識が高まったり、活発化しており、新たな公共サービスの担い手となっています。